

<知的障がい教育部中学部の実践>

I 研究授業一覧

(1) 授業研

授業日	各教科等	単元名	授業者
9月18日	自立活動	「手元をよく見て取り組もう」	菅原 彩夏
10月10日	作業学習	「さかとおく市に向けて丁寧に取り組もう」	石川 靖大
12月 6日	数学	「1000までの数～お金を使って 数えたり計算したりしよう～」	押切 咲子

(2) 授業参観シートを使った授業

授業日	各教科等	単元名	授業者
11月 4日	数学・図形	「模様をつくろう」	佐藤 祐果
1月24日	国語・数学	「俳句～五・七・五で気持ちを表そう～」	佐藤 ゆい
1月30日	自立活動	「指を使う力を高めよう」	伊藤 剛

II 実践から

3年次実践を進めるにあたり、三つの取り組みを行いました。一つ目は、学習内容表や実施記録を活用し、計画、評価、改善を通して学びがつながる授業づくりの実践を積み上げたことです。二つ目は、年間指導計画を活用し、学校生活や他教科との繋がりを考えて単元の計画を立てたことです。三つ目は、学部独自の「授業参観シート」を活用し、学部全員で共有したことです。活用した授業参観シートは（表1）の通りである。

表1

単元名「 」 授業者 日にち 場所	
1	授業のポイント（見どころ）生活にどう返せるか
2	手立てはどうだったのか
3	参考になったことは
4	今後に向けて
5	その他

また、数学や自立活動で活用している教材を見合う会を行い、どのように活用してどのような効果があったのかをグループで話し合った。様々な教科の活用法や生徒に応じた工夫などを話し合い、授業を作る上で参考にした。

Ⅲ 実践を振り返って

今年度（3年次）は、数学的な考え方や活動について他教科等とのつながりを考え自立活動や作業学習でも授業研究を行った。

<研究過程について>

○授業研究を行った授業

実施日	取り扱う内容	生活とのつながり
9月18日	自立活動	・印に合わせて磁石などを貼る。 →手元を見て、1～6の数を一つずつ確実に数える力を養う。 (写真1、写真2参照)
10月30日	作業学習	・カットや型抜きをした粘土を、型の中心や形を正確に合わせる。 ・出来高表に製品数を数えて記入し、皆で増えた数を確認する。 →製品をよりきれいに作り上げる楽しさや達成感、自分から働こうとする意欲を養う。(写真3、図1、図2参照)
12月6日	数と計算	・1000までの数を数えたり計算したりする。 →校外学習の買い物の場面でお金を計算して支払うことにつながる。(写真4、写真5、図3、図4参照)

(1) 成果

- ①自立活動や作業学習で数学的視点をもって授業を組み立てたことで、それぞれの授業のねらい達成に迫ることができた。また、生活との関連性を意識して授業を行うことができた。
- ②授業を見合い、授業参観シートに良いところや改善点を記入して共有したことで、授業者だけでなく参観者の授業改善につながった。

(2) 課題

- ①数学としての取り扱う内容を精選し、数学的学習を深めていけるような計画を立てる必要がある。他の教科や各教科と合わせた指導との関連を図ることが大事である。
- ②1人1人の実態把握、生活年齢に即した学習内容の取り組みを行っていく必要がある。
- ③生徒の思考を引き出すような発問、働きかけを大事にしていく必要がある。
- ④繰り返し取り組むように設定しながら、更に発展する授業を作っていく必要がある。

<自立活動>



写真1 魚釣りゲーム
手元を見て数を数える学習



写真2 磁石を数え、数字カードを選ぶ

<作業学習>



写真3 型抜きの様子

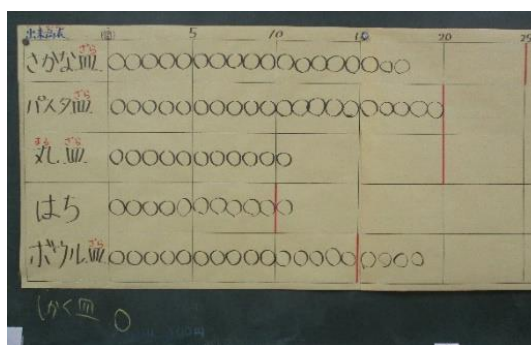


図1 出来高表の活用（窯業班）

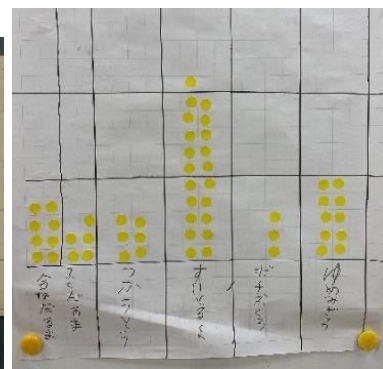


図2（紙工班）

<数学>

公開授業研究会当日



写真4 やり取り



写真5 めくりカード



図3 計算プリント

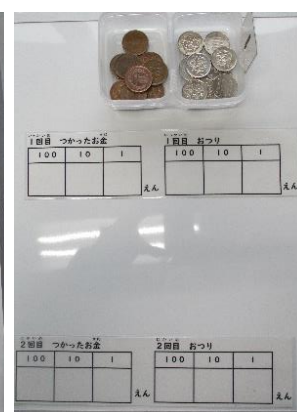


図4 発表カード

授業実践「1000までの数～お金を使って数えたり、計算したりしよう～」

日 時 令和6年12月6日（金）

3校時（10：30～11：20）

場 所 知的中学部3年2組教室

指導者 押切 咲子

1 目 標

- （1）三位数以下の整数の加法・減法の計算をする。（知識・技能）
- （2）お金を用いて数の表し方や計算の仕方などを考える。（思考・判断・表現）
- （3）数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことの良さに気づき、そのことを生活や学習に活用しようとする。（学びに向かう力・人間性）

2 指導にあたって

（1）生徒について

本学級の生徒は、男子1名、女子2名の計3名である。障がいの状況はダウン症の生徒が2名、発達障がいの生徒が1名である。そのうち2名は弱視等のため眼鏡を使用しており視覚情報の掲示に配慮が必要である。生徒は、簡潔な内容の指示を理解することができる。また、簡潔な単語を使った会話が可能であり、興味・関心があることについては積極的に指導者に伝えようとする。

数と計算について、繰り上がりのない一桁同士の足し算ができる生徒が1名、10までの数が分かり、指導者の補助を受けながら10や100のまとまりで数えることのできる生徒が1名、3までの数が分かり、指導者の補助を受けて10のまとまりで数えることのできる生徒が1名である。金種については、1名がお札以外の金種を区別でき、電卓を使用して簡単な金額の計算ができる。2名は十円と百円が区別できる。

お金の扱いについて、9月に行った修学旅行にて、大きな金額を扱って活動した。お小遣い六千円を持参し、旅行中の飲み物を購入したり、家族へのお土産や自分の好きな物を購入したりする体験をしている。事前学習で家族に何を購入するのか、自分は何を購入したいかなど、生徒の実態に合わせて計画を立て、現地で買い物をした。3名とも計画していた物を購入したり、実際に商品を見て買いたいと思ったものを購入したりすることができた。その一方で、お金を支払うときにどの硬貨を出せばよいのか自信がもてない生徒や、財布の中身を全て出してしまう生徒もいた。3名とも保護者と一緒に買い物に行く機会はあるが、保護者がキャッシュレス決済をすることが多く、生徒が自分で現金で支払う機会は非常に少ない。

（2）単元について

本単元は、生活との関連を図りながら金銭処理について学ぶために必要な学習である。家庭生活や学校の学習活動の中では買い物に触れる場面が多く、生徒の関心も高い。校外学習や修学旅行の事前学習でも買い物の場面を使った学習に意欲的に取り組む姿が見られた。そのため、本単元の学習を通し、生徒の実態に合わせて計算をしたり10や100のまとまりごとに数えたりすることで、今後の日常生活や校外での活動に活かすことができると考えている。買い物の場面を使った学習では、店員役と客役を交代しながら活動に取り組む。店員役は商品カードの受け渡しや金銭のやり取りを行い、客役では商品カードを選んだり、必要な金額を支払ったりする。また、12月に行われる校

外学習で買い物の場面を使った学習を予定している。そのため、現金で支払う場面が必要であると考えている。実物のお金を使って学習することで、お金の価値に気付いたり、量感を育てたりする機会にしたい。この単元での活動を通して、数や桁の大きさを考えて硬貨を出したり、計算して複数の金種を組み合わせて支払ったりするなど、自信をもって取り組むことができるのではないかと考えている。

(3) 指導について

本単元を指導するにあたり、日常生活につながる学習にしていきたい。お金の読み方では、実物のお金と金額や読み方が書かれたカードを使いながら数字の読み方を確認する。お金を金種ごとに分別し、数えたり計算したりする活動では、電卓や写真で硬貨の分類表を準備し、生徒の実態に応じて自分から分別したり、数える活動や計算の補助として使用できるようにする。

また、買い物の場面を使った学習をするときには、店員役と客役のやり取りのひな型を作成し、生徒同士がやり取りをしやすいようにしていきたい。その際、言葉が出るまで時間がかかる生徒がいた場合も考慮し、短く簡潔なひな型にする。文頭や単語を話したときには必要に応じてやり取りの補助をする。客役で商品カードを選ぶときは、生徒の実態に合わせて1枚から複数の商品カードを選べるように設定する。商品カードに関しては全て硬貨で支払うことができるように設定する。見通しをもち落ち着いて学習に取り組めるように、同じ授業内容に繰り返し取り組む機会を設定する。

3 単元計画

(1) 単元計画 (8時間計画 本時7/8)

次	時数	主な活動内容	学習指導要領における位置付け
1	1～2	数字の読み方をお金を使って確認しよう。	【数学：知識・技能 「数と計算」中1A】
2	3～4	10や100のまとまりで数えたり、計算したりしよう。	【数学：思考・判断・表現「数と計算」1イ】
3	5～8 (本時)	買い物の場面を使った学習をしながら、お金の計算の仕方や使い方を覚えよう。	【算数：学びに向かう力・人間性「数量の基礎」1ウ】 【算数：学びに向かう力・人間性「数と計算」1ウおよび3ウ】

(2) 個別の実態と単元目標

生徒	実 態	目 標
A	・十円と百円が区別できる。 ・5までの数を数えることができる。指導者の補助を受けながら、6から10までの数を数えることができる。 ・指導者の「10、20…」という言葉掛けに合わせて指を使って十の位の数字を表そうとすることが多い ・表などの補助具を使用して、指定された金種で支払おうとする。 ・気分にもらがあるが、積極的に学習に取り組むことが多い。	・指導者の補助を受けながら十円と百円を10と100のまとまりで数える。 (知識・技能) ・好きな商品カードを1枚選び、硬貨を数えながら支払いをする。 (思考・判断・表現) ・自分からお金にかかわる学習に取り組もうとするもうとする。 (学)

B	・十円と百円が区別できる。 ・10までの数を自分で数えることができる。数え間違えたときは、指導者の言葉掛けを受けて正しく数えることができる。 ・十円を10のまとまりで数えようとすることがある。 ・色や硬貨の大きさによって金額が違うことを知っている。 ・気分がむらがあるが、補助具や実際のお金を使ったり授業内容を事前に確認したりすることで、集中して学習に取り組むことが多い。	・十円と百円を10と100のまとまりで数えようとする。(知識・技能) ・2種類の硬貨を使った買い方を考えようとする。(思考・判断・表現) ・自分から硬貨を数えて学習に取り組もうとする。(学)
C	・全ての硬貨を分別し、三桁までの数字を読むことができる。間違えたときは指導者の言葉掛けを受けて分別したり数え直したりできる。 ・電卓を使用して三位数までの計算をすることができる。 ・その日の気分によって取り組み方に大きな差があるが、指導者の言葉掛けを受けて最後まで課題に取り組もうとすることが多い。	・電卓を使って金額を計算する。(知識・技能) ・複数の硬貨を組み合わせて買い物をする。(思考・判断・表現) ・お金や電卓を使って、自分から三位数以下の計算に取り組もうとする。(学)

4 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・お金を使って10や100のまとまりで数えたり、計算したりする。(知識・技能)
- ・金額と金種を比べながら必要な金額を支払おうとする。(思考・判断・表現)
- ・お金を使って数えたり計算したりする活動に進んで関わろうとする。(学びに向かう力・人間性)

(2) 本時の個別の目標

生徒	目標	手立て
A	・十円と百円の枚数を10と100のまとまりで数える。(知・技) ・位表を使いながら百円で購入できる商品に気付く。(思・判・表) ・補助具を使用して数のまとまりや数の大小を考えながら、お金にかかわる学習に自分から取り組もうとする。(学)	・必要に応じて補助をしたり手本を示したりする。 ・百円硬貨のみで買い物ができるように、身近な商品カードを準備する。 ・位表を準備し、百円で購入できるものが視覚的に分かるようにする。 ・実物のお金を準備したり、積極的に学習に取り組めるような言葉掛けをしたりする。

B	・十円と百円の枚数を１０と１００のまとまりで数える。（知・技） ・十円と百円の枚数を数えて買い物をする。（思・判・表） ・最後まで進んで学習に取り組もうとする。（学）	・硬貨を数えやすいように表を準備する。 ・金種と枚数が視覚的に分かりやすい位表を準備する。 ・食べ物や飲み物など関心のある商品カードを準備する。 ・活動内容を示し見通しをもって集中して取り組めるようにする。
C	・電卓を使って金額を計算する。（知・技） ・複数の金種を組み合わせで計算し買い物をする。（思・判・表） ・自分から硬貨の枚数を数えたり金額を計算したりして今後の活動に活かそうとする。（学）	・電卓を準備する。 ・金種分別表を準備する。 ・実物の金を準備したり、積極的に学習に取り組めるような言葉掛けをしたりする。 ・校外学習でも買い物をすることを意識できるような言葉掛けをする。

(3) 本時の流れ

時間	学習内容	○生徒の動き ・指導者の主な支援（かかわり、動き、教材教具等）	備考(準備物等)
導入 15分	1 はじめの挨拶をする。 2 活動内容を確認する。	・全員の顔が指導者に向いたことを確認してから挨拶をする。 ・活動内容と目標の確認をする。 お金を数えたり、計算したりして買い物をしよう。	・目標をラミネートした紙
展開 20分	3 個別の課題に取り組む。（図１） 4 全体学習「買い物の場面を使った学習」に取り組む。（図２）	○机を移動し、個別の課題に取り組む。 ・指導者は学習の進み具合に応じて支援や丸付けをする。 生徒A（課題１） 十円と百円の硬貨を使用しながら１０、１００のまとまりで硬貨を数える。 生徒B（課題２） 十円と百円の硬貨を使用しながら１０、１００のまとまりで硬貨を数える。 生徒C（課題３） お金の計算プリントに取り組む。電卓や硬貨を数えながら計算する。 ○店員役と客役の順番を指導者と一緒に決め、ホワイトボードに提示する。 ○机の上に商品カードを並べたり、電卓を準備したりする。 ・硬貨と商品カードを準備する。 ○役に合わせて自分に必要な物を準備する。	・位表 ・実物の硬貨（課題１、２） ・お金の計算プリント（課題３） ・電卓 ・順番を貼るホワイトボード

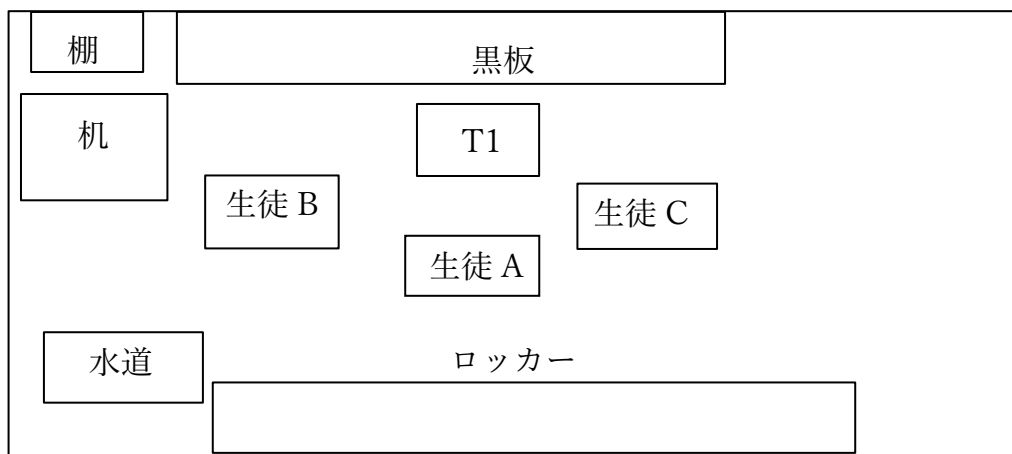
		・必要に応じて言葉掛けを行う。 生徒 A 客役 百円の硬貨が入ったケースを選び、百円で購入できる商品カードを1枚選ぶ。選んだ後に店員役が会計をする場所に移動する。 店員役 やり取りカードを見ながら、指導者と一緒に会計をする。 生徒 B 客役 十円、百円の硬貨が入ったケースを選び、商品カードを2枚選ぶ。選んだ後に店員役が会計をする場所に移動する。 店員役 やり取りカードを見ながら、指導者と一緒に会計をする。	イトボード ・生徒の写真 ・電卓 ・商品カード ・トレイ ・硬貨を入れるケース ・実物の硬貨 ・やり取りカード
		生徒 C 客役 全金種の硬貨が入っているケースを選び、商品カードを選ぶ。選んだ後に店員役が会計をする場所に移動する。 店員役 やり取りカードを見ながら、電卓を使用して会計をする。	
まとめ 15分	5 本時を振り返り次時の内容を確認する。 6 終わりの挨拶をする。	○購入した商品カードをホワイトボードに貼って合計金額を書く。 ・「使った金額やおつりを発表しましょう。」 ○生徒 A から順に発表する。 ・必要に応じて発表カードを準備する。 ・生徒の良かった点を取り上げ、称賛して次の活動につなげる。 ・次時の内容を説明する。 ・全員の顔が指導者に向いたことを確認してから挨拶をする。	・ホワイトボード ・ペン ・選んだ商品カードを貼った発表カード

(4) 本時の評価

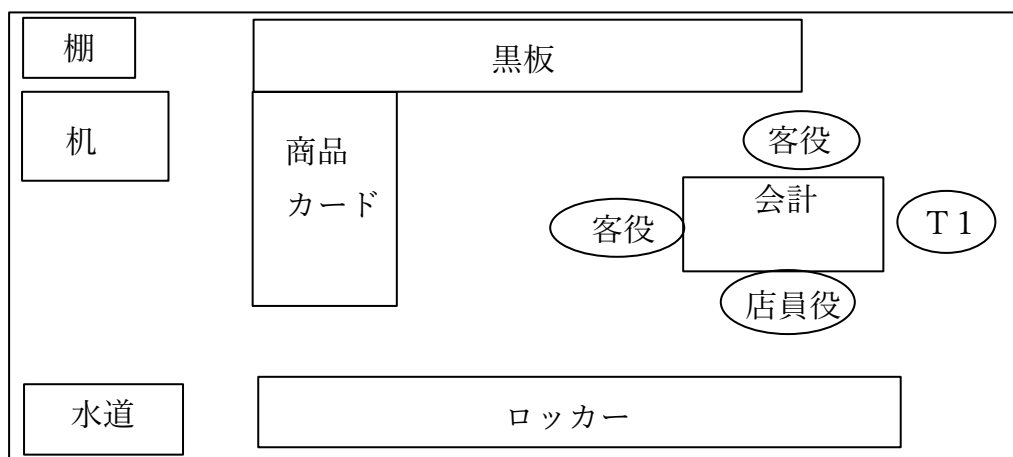
- ・お金を使って10や100のまとまりで数えたり、計算したりできたか。
(知識・技能)
- ・金額と金種を比べながら必要な金額を支払うことができたか (思考・判断・表現)
- ・お金を使って数えたり計算したりする活動に進んで関わることができたか。
(主体的に学習に取り組む態度)

(5) 場の設定

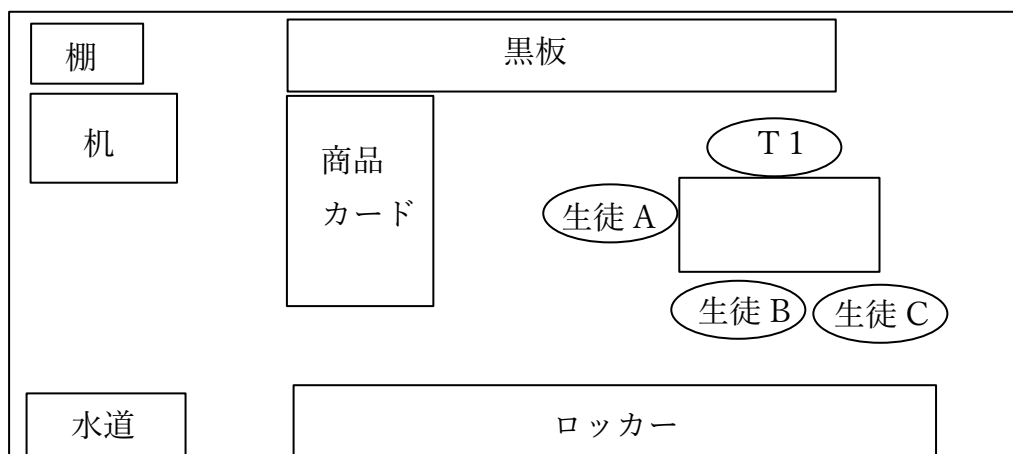
(図1)



(図2)



(発表時)



・学習内容表 ※授業に関する部分のみ掲載

Aさん

() 内…対応する☆本の項目

【小学部第2段階】

◎習得○実施中▲未実施

A.数と計算	
対応させて くらべてみよう 同等 (くみあわせ①②)	▲
対応させて くらべてみよう 多少 (くみあわせ③)	▲
じゅんじょよく 10までのかず かぞえましょう (10までのかず かぞえましょう①)	▲
1～5までのかず かぞえましょう	◎
10までのかず かぞえましょう 整列	◎
10までのかず かぞえましょう 雑然	○
10までのかず すうじをしろう (10までのかず)	◎
すうじの よみかき (カードづくり①)	◎
数えて すうじをかきましよう (カードづくり②)	○
すうじをみて 個数がわかる (カードづくり③)	◎
10までのかず 音が鳴った回数・うごきをかぞえよう (10までのかず みえないものをかぞえる) (10までのかず うごきをかぞえる)	▲
かずをくらべてみよう 1～3 (くらべてみよう①)	◎
かずをくらべてみよう 5まで (くらべてみよう②)	◎
かずをくらべてみよう 10まで (くらべてみよう③)	◎
かずをくらべてみよう 数字 (くらべてみよう④)	▲
なんばんめ 5まで	▲
なんばんめ 10まで	▲
なんばんめ 方向性が定まっていない5まで	▲
10までのかず 0のりかい	▲
いくつといくつ 4まで	▲
いくつといくつ 5	▲
いくつといくつ 6	▲
いくつといくつ 7	▲
いくつといくつ (例) 5あるから、5といくつで8になるか	▲
いくつといくつ (例) 6あるから9は6といくつか	▲
10はいくつといくつ	▲
まとめ	▲

Bさん

() 内…対応する☆本の項目

【小学部第1段階】

◎習得○実施中▲未実施

B.数と計算	
ぼーるを だんだん へらしましょう (ある・ない③)	▲
3 ころう (とりましょう)	▲
ぜんぶ「さん」	▲
いち、に、たくさんであらわそう (いち、に、たくさん)	◎
かぞえてみよう「5 までのかず」 (いち、に、さん、し、ご)	◎
ボウリングのピンをマークにあわせて、ならべよう (マークに合わせてならべましょう)	▲

【小学部第2段階】

◎習得○実施中▲未実施

A.数と計算	
対応させて くらべてみよう 同等 (くみあわせ①②)	▲
対応させて くらべてみよう 多少 (くみあわせ③)	▲
じゅんじょよく 10 までのかず かぞえましょう (10 までのかず かぞえましょう①)	▲
1～5 までのかず かぞえましょう	◎
10 までのかず かぞえましょう 整列	◎
10 までのかず かぞえましょう 雑然	▲
10 までのかず すうじをしろ (10 までのかず)	◎
すうじの よみかき (カードづくり①)	▲
数えて すうじをかきましょう (カードづくり②)	▲
すうじをみて 個数がわかる (カードづくり③)	○
10 までのかず 音が鳴った回数・うごきをかぞえよう (10 までのかず みえないものをかぞえる) (10 までのかず うごきをかぞえる)	▲
かずをくらべてみよう 1～3 (くらべてみよう①)	◎
かずをくらべてみよう 5 まで (くらべてみよう②)	◎
かずをくらべてみよう 10 まで (くらべてみよう③)	○
かずをくらべてみよう 数字 (くらべてみよう④)	▲
なんばんめ 5 まで	▲
なんばんめ 10 まで	▲
なんばんめ 方向性が定まっていない5 まで	▲
10 までのかず 0 のりかい	▲
いくつといくつ 4 まで	▲
いくつといくつ 5	▲

いくつといくつ 6	▲
いくつといくつ 7	▲
いくつといくつ (例) 5 あるから、5 といくつで8になるか	▲
いくつといくつ (例) 6 あるから9は6といくつか	▲
10はいくつといくつ	▲
まとめ	▲

Cさん

() 内…対応する☆本の項目

【小学部第2段階】

◎習得○実施中▲未実施

A.数と計算	
対応させて くらべてみよう 同等 (くみあわせ①②)	▲
対応させて くらべてみよう 多少 (くみあわせ③)	▲
じゅんじょよく 10までのかず かぞえましょう (10までのかず かぞえましょう①)	◎
1～5までのかず かぞえましょう	○
10までのかず かぞえましょう 整列	◎
10までのかず かぞえましょう 雑然	◎
10までのかず すうじをしろ (10までのかず)	○
すうじの よみかき (カードづくり①)	◎
数えて すうじをかきましょう (カードづくり②)	○
すうじをみて 個数がわかる (カードづくり③)	○
10までのかず 音が鳴った回数・うごきをかぞえよう (10までのかず みえないものをかぞえる) (10までのかず うごきをかぞえる)	▲
かずをくらべてみよう 1～3 (くらべてみよう①)	◎
かずをくらべてみよう 5まで (くらべてみよう②)	◎
かずをくらべてみよう 10まで (くらべてみよう③)	◎
かずをくらべてみよう 数字 (くらべてみよう④)	◎
なんばんめ 5まで	○
なんばんめ 10まで	○
なんばんめ 方向性が定まっていない5まで	○
10までのかず 0のりかい	○
いくつといくつ 4まで	▲
いくつといくつ 5	▲
いくつといくつ 6	▲
いくつといくつ 7	▲
いくつといくつ (例) 5 あるから、5 といくつで8になるか	▲

いくつといくつ （例） 6 あるから 9 は 6 といくつか	▲
10 はいくつといくつ	▲
まとめ	▲

公開授業について

1 児童生徒について

- ・ 参観者がいた中で、落ち着いて学習に取り組んでいた。
- ・ 授業の前半は指導者の言葉掛けによく反応しており、個別の学習にも集中して取り組んでいた。その一方、買い物を想定した場面では集中力が切れてしまう場面もあった。

2 授業について

- ・ 商品カードや実際の硬貨を使用して学習したことで、興味をもって学習に取り組むことができていた。
- ・ 商品カードを貼ったホワイトボードを見合いながら発表したことで、お互いの購入した商品カードの金額やおつりを共有できてよかった。
- ・ 個に応じた指導が行き届かない部分があった。学習内容を精選することで、一人一人とじっくりかかわりながら学習に取り組めるとよかった。

3 単元を振り返って

(1) 児童生徒の姿

- ・ 繰り返し学習に取り組んだことで、見通しをもって積極的に授業に取り組むことが多くなった。
- ・ これまで取り組んだことのなかったまとまりでの数え方を知ることができた。硬貨を見ると、10、20、、、100、200、、、と数えようとするようになった。
- ・ 実際のお金を使用して繰り返し学習したことで、校外学習で硬貨の枚数を自分から数える場面があった。

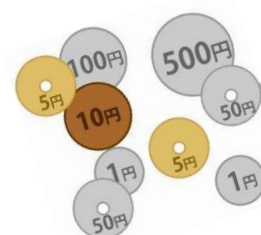
(2) 授業づくりについて

- ・ 実態把握をより丁寧にできるとよかった。
- ・ 視覚的な支援を多く取り入れたが、情報量が多くなりすぎた。
- ・ タブレットやTV端末を見ることに集中しそうで避けたが、ICT機器を有効に活用できるとよかった。

指導助言

【助言山形県教育局特別支援教育課 主任指導主事 飯沼 恵 先生】

- ・今日の授業で生徒が何をどう感じたかを確かめる場面を設ける。子ども自身の言葉で自分がどうだったか確認する。→学びのフィードバック。何がよかったのか、子どもたちに返していく。(即時評価)
 - ・シートで基本を押さえつつ、日常生活で起こることに対応できる力を見ていくことも必要。
 - ・本物のお金を使っていたことはよかった。具体物、本物を使うことは知的障がいの子には大切な経験。
 - ・繰り返しやっていくことが大事。繰り返しながら、更に発展する授業を。
 - ・本時の活動が次の授業につながっていく。一つ一つのつながり、ねらいを大切にし、学んだことを次に活かしていく。
 - ・数学科の目標・内容：1000までの物の数であれば、いくつかのまとまりで数えることと便利なことは押さえない。
 - ・「金銭の扱い」「買い物ができるように」が目標とねらいであるならば、生活科で学んだことを、日常生活や学習（校外学習での買い物、バザーでの会計等）に活かす。
 - ・学校での学習では、他の教科や「各教科と合わせた指導」との関連を図る。
 - ・教科別の指導では、個々の実態把握、生活年齢が大事。学びの力によるグループ分け、指導形態の工夫。
 - ・ICTを有効に活用してほしい。授業の導入で、紙に単元計画や学習内容を掲示していたが、パソコンで作ってモニターに提示することもできる。文字の大きさなども自由に変えられるので取り入れてみてはどうか。
 - ・机上の学習が机上だけでなく、生活の中で使える力となっていくために
～生活の中で使おうと思う授業になっているか。学んだことを活用する場面を設ける。(バザーや買い物等)
～児童生徒本人と先生が目標を共有する。 生徒自身も自分の力を活かす意識を持てることが大事。
～「各教科の指導」と聞くと「机上の学習」をイメージしがちですが、体験的な指導も合わせた指導と変わらない。児童生徒の姿から授業を考える。
- <重複障がいの生徒の数学的学習>
- ・数学的内容をどういった方法で扱えるかを考える。
 - ・重度障がいの困難さから考えた授業づくり、支援を考える。学習内容によっては、教員と一緒に取り組む活動を取り入れ、自分でできるための教材教具の工夫をすることも必要。
 - ・自立活動と関連させていく。本人が今持っている力を発揮できる工夫をする。



IV 3年間のまとめ

(1) 3年間の取り組み

①1年次の取り組み

- ・ 学びの履歴シートを記入し生徒の実態を把握した。
- ・ 学部独自のステップアップ表と段階シートを作成し次時の授業内容や目標の設定などに活かした。（※P 17、P 18 参照）
- ・ 数学の授業で全体指導を行い、発表や関わりあう場面を設けた。
- ・ 数学で学んだことを他の教科や学校生活に活かすことを見据えて、授業作りを確認した。
- ・ 2年次に向けて年間指導計画の見直しをした。

②2年次の取り組み

- ・ 年間指導計画を活用しどの単元をどの時期に行うか考えて授業を行った。
- ・ 数学と他の教科とのつながりを考えて、横のつながりを意識して取り組んだ。
- ・ 学部独自の参観シートを作成し、複数の教員の授業を見合い、生活に活かせるような身近なところを意識して、授業を行った。
- ・ 前期終了時に、小グループでの話し合いの場を設け学校生活とつながりや生徒の取り組みから学習内容を見直し、後期の計画作成へと活かした。

③3年次の取り組み

- ・ 学習内容表や実施記録を活用し、計画、評価、改善を通して学びがつながる授業づくりの実践を積み上げた。
- ・ 年間指導計画を活用し、学校生活全体や他教科等のつながりを考えて単元計画を立てた。
- ・ 学部独自で作成した参観シートを活用し、ポイントを絞った視点で感想を記入してもらい、全員で共有し、次時への授業に活かしてきた。

(2) 取り組みから

①成果

1年次には学部独自のステップアップ表を参考に、次時の授業内容や目標の設定などに活かすことができた。全体指導で、発表やかかわり合う場面を設けることにより、生徒同士が学び合えた。例えば「バザーのため」「校外学習の買い物のため」などの学習の目的を知ることで、積極的に取り組む生徒もいた。

2年次には、学部職員一人一人が生徒の実施記録をとり、小グループで個別の指導計画について話し合い改善することができた。そこから生活に活かすことを意識して授業作りに取り組むことができた。また、学部独自の授業参観シートを活用し、様々な先生の授業を見合い学部間で共有することができた。

3年次には、今までの積み上げを基に、授業実践の積み上げを行なってきた。実態に合った目標の設定や課題を提示することで、生徒が自ら学習に取り組む姿がたくさん見られた。また、授業研究前には、学部の職員が一丸となり、教材の改良や生徒の実態について話し合いの場を設けることで、より個に応じた授業を行なうことにつながった。

②課題

1年次は、より生活に活かせるような身近な題材を使った授業をしていく必要があることや生徒の、他の領域の実態も捉えることで、より深く生徒を知ることができるとうわかった。

2年次には、生徒の実態に適した課題を把握していくことや生徒が主体的に学ぶ姿を引き出すためのアプローチと表出を待つ姿勢を大事にしていく必要があると話題になった。また、より生活に近い形で、実生活に結び付く学習を増やしていくことも大切になると話題になった。

3年次には、指導者の発問について伝えたいことが多くなると指導者が先導してしまうことがあるため、個別のペースにあった指導や支援が出来ると良い事があげられた。また、生徒の集中力が切れる事については今後もアイディアを出しながら進めていく必要があると話題になった。

③生徒の変容

3年間の研究の取り組みから、生活との結びつきの視点を取り入れた授業を積み上げてきたことで、作業学習においてはバザーでたくさん売りたい気持ちをもって取り組む生徒が増えてきた。また、製品を綺麗に仕上げたり、丁寧に取り組もうとしたりした。授業で取り組んだ内容を日常生活で活かそうとする生徒が増えてきた。図形を学習することで皿の形とのつなげることができるようになった。身近なものへの興味関心が増え、廊下を歩いている時に、「窓の形は四角だな。」「非常ベルは円だね。」と日常の中で学習したことを結びつけるような自然な会話が増えてきた。

(3) 今後の授業づくりで大切にしていくこと

◇授業のあり方・つくり方等

- ①段階表、ステップアップ表、学習内容表等を活用し、他教科や領域とのつながりを考えた単元計画づくりをする。
- ②より丁寧な実態把握をし、個々の実態に応じた的確な支援をする。
- ③生徒自身が学びを確認できるように、即時評価したり振り返りの会で生徒が語る場面を設けたりする等、適切な場面で学びのフィードバックをする。
- ④授業後に評価を活かした、次の授業を考えて改善する。
- ⑤定期的（学期ごと）に授業の改善をする。

◇生活とのつながり

- ①実生活や他教科とのつながりをもたせることで、生徒自身が学んだことをそれらに活かせるよう、また、他教科の次の学びにつながっていくようにする。
「各教科等を合わせた指導」との関連を図ることを大事にした授業づくりをする。

◇教材

- ①ICTの効果的な活用や個々の実態に合った教材や学習活動の工夫をする。
- ②できるだけ実生活や本物に近い教材を活用する。

※別紙

作成したステップアップ表、段階表は以下（図1～3）の通りである。

＜お金の計算＞

学習指導要領の算数・数学のA 数と計算 中学部1段階イ - (ア) - ⑤「計算機を使って、具体的な生活場面における簡単な加法及び減法の計算ができること。」に基づき、お金の計算を題材に取り組んだ。お金の学習をするにあたり、どのような段階があるのかを話し合い、ステップアップ表を作成した。

お金□（生活科□□算数・数学科□数と計算）も	・硬貨の違いが分かる。(形)。 □50円□ 100円 ・硬貨の違いが分かる。(色)。 □10円□ 5円□ 1円 ・財布から決められたお金を出す。	・硬貨の種類が分かる。 ・紙幣の種類が分かる。	・物の値段を見て、硬貨または紙幣が出せる。(1枚) ・硬貨と金額のマッチング。	・数字とお金のマッチング。 □例：200円は100円を2枚出すのが分かる。	・金種が混じった時の支払いができる。 ・5円□50円□500円を使って出す。 ・10とび□50とび□100とびの数唱。	・両替ができる。 例：100円は50円が2枚 □500円は100円が5枚。	・数の大小が分かる。 ・合計が足し算であることが分かる。立式できる。 ・お釣りが分かる。引き算の立式ができる。	・1000円で何をどれだけ買えるかが分かる。 ・買うときに必要な金種が分かる。
-------------------------------	---	------------------------------------	--	--	--	--	--	--

(図5 授業から考えたお金のステップアップ表)

＜データの活用＞

学習指導要領より、抜粋し作成した。

データの活用	○×の意味が分かる。	同じ、多少が分かる。長短が分かる。	目的、用途、機能に着目して分類する。 ○×を用いた表で表す。 表を読み取る。	物と物との対応や個数について、簡単な絵や図に表して整理したり、それらを読んだりする。 比較して読み取る。 絵や図、記号に置き換えて簡潔に表現する。	簡単なグラフに表す。 読み取ったり考察したりする。	データを日時や場所などの観点から分類及び整理し、表や棒グラフで表す。 棒グラフを読み取る。	折れ線グラフで表す。 折れ線グラフを読み取る。	表や棒グラフ、折れ線グラフの意味やその使い方を理解する。 適切なグラフを用いて表現したり、考察したりする。
	＜小2段階＞			＜小3段階＞	＜中1段階＞	＜中2段階＞		

(図6：データの活用の段階表)

生徒の実態が小学部3段階～中学部1段階であったため、その部分にクローズアップし、どのようなステップがあるのかを考え、作成した。

データの活用も	表すも グラフで	シールを貼ってグラフを作る。☞	定規とグラフ用紙を使って、棒グラフを書く。☞	2とび5とびの目盛りで棒グラフを作る。☞
	グラフの読み取り・考察も	「一番多い」「一番少ない」を読み取る。☞	「○番目に多い」「○番目に少ない」を読み取る。☞	「基準値より多い・少ない」を読み取る。☞
		3つの比較。☞ Ex) 晴れ、曇り、雨☞ 元データ量1週間分(7日分)☞	3つ以上の比較。☞ Ex) 晴れ、曇り、雨、雪、雷☞ 2週間分(14日分)☞ 1ヶ月分(30日分)☞	2つのグラフを比較。☞ Ex) 酒田市の天気グラフと新潟市の天気のグラフを比較する。☞
		「多い」「少ない」を考える。☞		「多いから～」「少ないから～」など考える。☞
	活用も	作業の製品の出来高表、ゲームの得点表など身近なグラフが分かる。☞		テレビの天気予報などのグラフが分かる。☞

(図7：データの活用のステップアップ表)